

# INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL  
52

2018

## 若手医療スタッフの育成と病院の更なる進化

DOCTOR'S VOICE 01 現状を踏まえた上で大胆な選択と集中を行い、安定した経営を目指します

DOCTOR'S VOICE 02 最新のPET検査で、がん、炎症、認知症の的確な診断をめざす

DOCTOR'S VOICE 03 充実した地域医療を行うため、専門性の高い医師育成に期待



病院長2期目の抱負

**現状を踏まえた上で大胆な選択と集中を行い、安定した経営を目指します**

附属病院長 三浦裕正

**■ 1期目（2015年4月～2018年3月）の総括および****2期目の目標や展望を教えてください。**

私が病院長になったのは2015年4月です。それから3年間は、1年目より2年目、2年目より3年目と右肩上がりに病院収入は増え、経営がうまくいったという手ごたえはあります。しかし、診療報酬の改定や愛媛大学全体の財政状況などの外部環境の影響や、当院のキャバ的な問題などで、年々伸び率は鈍化傾向にあります。

2期目の最初の年にあたる今年度は、診療報酬・介護報酬の同時改定など医療改革が重なっており、また、来年には消費税10%の導入も控えています。さらに、働き方改革は医療関係者も無関係ではなく、2期目は経営において大変厳しくなると考えています。

私が病院長になってから、年間の手術件数が1000件以上増加しましたが、麻酔科医師や手術部の看護師もオーバーワークとなっており、また、手術室も飽和状態で手術件数の増加も頭打ちになっています。スタッフや手術室を増やすことには限りがあるため、他病院と連携し、サテライトセンターを設置することで手術件数を増やし、病院収入の増加に繋げたいと思います。

例えば人工関節の手術は半年待ちになるほど、手術を必要としている患者さんが多くいらっしゃいます。そういった地域の皆さんが必要とする手術を、多く実施できる病院であるために、戦略的に大胆な選択と集中を実施していきます。

**■ 2期目から就任した3人の副病院長について期待されていることは？**

総務・診療担当となった杉山隆先生（産婦人科教授）は、以前所属していた三重大学や東北大学で、優れた母子周産期ネットワークを構築したという実績があり、筆頭副病院長の役割をお願いしました。関係者をまとめる力をお持ちなので、難しい場面でも力を発揮してくれるはずです。

また、経営担当を國枝武治先生（脳神経外科教授）にお願いしました。私も含め、病院の医師が経営に携わることはそうそうありませんが、國枝先生は愛媛大学にきて2年であり、新鮮で斬新な視点で経営を行ってくれると思います。

橋渡し研究推進担当の今井祐記先生（病態生理学教授）は、整形外科で小児整形のエキスパートでした。また、現在、基礎系の研究でも非常に優れた業績を上げられています。基礎系、臨床系両方の経験が豊富であるため、橋渡しには最適な先生だと考えています。

新任の副病院長は、新たな視点で当院の運営に携わってくれるでしょう。

**■ 患者さんへのメッセージを。**

当院は「患者から学び、患者に還元する病院」を基本理念にしています。我々は患者さんを診療しながら、本当に学ばせていただいています。我々が学んだことを治療という形で還元したいという気持ちで、全職員は一致しています。大学病院なので敷居が高いイメージがあるかと思いますが、それらを払拭する取組みも実施していくたいと考えています。ぜひ安心して当院を受診してください。

**PROFILE**

みうらひろまさ○長崎県出身、1982年九州大学医学部卒業、医学博士。九州大学医学部准教授などを経て、2010年から整形外科教授。2015年4月から現職。変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術を専門として、国内の臨床、基礎研究をリード。趣味は渓流釣り、ゴルフ、読書。

医学部附属病院のここがすごい「PETセンター」

## 最新のPET検査で、がん、炎症、認知症の的確な診断をめざす

PETセンター長 宮川正男

当センターでは、全身の悪性腫瘍（癌細胞）や活動性の炎症細胞を発見するため、ブドウ糖に良く似た性質を持つFDGという診断薬を静脈注射後に、PET（陽電子放射断層撮影）装置を用いて検査を行っています。2010年の開設以来、初年度の834件から昨年は1,783件まで件数は増加して、8年間でのべ12,187人に安全に検査を受けて頂きました。悪性腫瘍（癌）の病期診断および転移・再発の診断目的が9割以上とほとんどですが、特殊な前処置を必要とする心サルコイドーシスにおける炎症部位の診断も施行しており、全国有数の検査数となっています。本年4月からは新たに高安動脈炎等の大型血管炎の診断も保険適用に追加されました。

また、認知症の検査として、脳へのアミロイドの沈着の有無や程度を可視化する新薬の保険適用が予定されています。

来年度には、さらなる検査数の増加に対応すべく、高分解能かつより高速撮影が可能な新型PET装置の導入が決定しました。今後も患者さんに最新の検査を受診して頂けるように取り組んで参ります。



### PROFILE

みやがわまさお◎平成3年、愛媛大学大学院医学研究科修了。同年、国立病院機構愛媛医療センター放射線科医長。平成14年から2年間、ドイツミュンヘン工科大学核医学科にてPET研究に従事。平成17年、愛媛県立中央病院放射線科部長（PET-CTセンター長）を経て、平成23年より現職。平成30年、附属病院放射線科特任教授。妻も放射線診断専門医。

### FROM VIP DOCTOR

愛媛大学医学部附属病院に期待すること『VIP DOCTOR に聞く』

## 充実した地域医療を行うため、専門性の高い医師育成に期待

済生会西条病院 院長 岡田眞一

附属病院には、「地域医療を守るために医師派遣の充実」「卒業生が愛媛に残って医療を行いたいと思える魅力づくり」「専門医制度の充実」の3つを期待します。

愛媛大学は「地域の持続的発展を支える人材育成の推進」を第一戦略に掲げています。附属病院には、地域病院の医師不足の解消に向けて、医師を含めた人材育成を一番に取組んでいただきたいです。また、附属病院の専門医制度は19の専門研修プログラムがあります。愛媛で専門医研修を受けることで、知識とともに充実した診療実績も得られることが、医師に広く伝わってほしいです。その結果、愛媛県内に残って、医療を続けようと思う医師が増えてほしいと考えます。附属病院は開院から40年以上がたち、教授の世代交代もあって、これから新しいことが始まる期待があります。

平成30年2月26日、当院と附属病院で地域の安定的な医療提供体制の確保などを目的とした協定の調印式を実施しました。これを機に、医師だけでなく看護師等医療スタッフの相互派遣が進むことを望みます。



### PROFILE

おかだしんいち◎1979年愛媛大学医学部卒業後、大学院に進学、同年、愛媛大学医学部第3内科入局。1983年済生会西条病院赴任。2007年から現職。専門は消化器内科。趣味はゴルフ、読書。

# 愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

## 第30回連携病院長会議を開催



平成30年3月3日(土)、臨床研修、先進医療、地域医療等の情報交換を目的とした愛媛大学医学部連携病院長会議を開催し、県内外の病院長ら約150人が参加しました。

会議では、愛媛県の医療を取り巻く環境について確認し、今後の課題を議論しました。また、30回を記念し、衆議院議員の塩崎恭久先生が「新たな地域保健医療を目指して」と題して特別講演を行い、大いに盛り上がる会議となりました。

総務課企画・広報チーム ☎089-960-5943

## モンゴル研修団の受け入れ



平成30年2月26日(月)から4日間、JICA日本モンゴル教育病院プロジェクトで、モンゴルの医師や看護師11人の研修を受入れました。JICAから受託した本プロジェクトで、当院は、モンゴル初の教育病院開設に携わる医療人の研修を行っています。院内感染対策と医療情報システムの構築を学びにきたモンゴル研修団に、当院の医師らが、読影方法や院内ネットワークの運用講習等、実践的な研修を実施しました。

総務課国際化推進室 ☎089-960-5122

## 1類感染症患者対応訓練を実施



平成30年2月13日(火)、感染力や重篤度が極めて高い1類感染症患者の発生を想定した対応訓練を実施し、愛媛県や警察及び消防本部等、約120人が参加しました。今回、エボラ出血熱流行地域からの帰国人が発熱し、近医を受診したと想定して訓練を実施しました。訓練では、防護服の着脱方法や患者の搬送方法、連絡方法の確認等を緊張感をもつて実施しました。当院では、今後も有事に備え対応訓練を実施していきます。

総務課企画・広報チーム ☎089-960-5943

## エイズネットワーク会議を開催



平成30年2月13日(火)、愛媛県内のエイズ診療体制の充実を図ることを目的とした、エイズネットワーク会議を開催しました。会議では、毎年新規患者が増加している愛媛県における、若い世代への検査の普及方法等について議論しました。また、川崎医科大学病院の和田秀穂教授が、早期発見に繋がるクリニック検査の導入や、感染防止体制の構築等、岡山県の取組みについて講演し、参加者の理解を深めました。

総務課企画・広報チーム ☎089-960-5943

## 地域医療連携ネットワーク研究会を開催



平成30年2月24日(土)、第18回地域医療連携ネットワーク研究会を開催し、約250人の参加がありました。

研究会では、日浅陽一総合診療サポートセンター長の講演の後、「これからの地域包括ケアを編む」をテーマに、意見交換を行いました。今回の研究会を通して、医療と保健、介護が、高齢者をどのように支え合うことができるかについて、議論を深めることができました。

総合診療サポートセンター  
☎089-960-5261

## 編集後記

暖かさが戻り、若葉が目にも鮮やかな季節となりました。表紙のとおり、当院は今年度も若さはじける研修医と看護師を大勢迎えることができました。愛媛の医療の充実のために、将来優秀な医師、看護師になってもらえるよう、職員一同支援していきたいと思います。また、当院のよき伝統を継承しつつ、若いスタッフの斬新な意見を積極的に取り入れ、より良い病院に進化するよう取組んでいきます。

今回紙面では、2期目を迎えた三浦病院長に今後の運営について伺いました。また、PETセンターの紹介および済生会西条病院の岡田院長に、附属病院に期待することについて伺っています。是非ご一読ください。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙  
病院長 三浦裕正  
看護部長 久保幸  
総合臨床研修センター長 高田清式  
新人研修医 看護師



# 愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111(代)  
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>